





ゾンマーフェルト(左)とパウリ。パウリはとても礼儀正しく、控え目に見える(いつもはそうでない!). 彼はかつての自分の教授にたいしては、いつもこのような態度だった。パウリ自身それを〈学生コンプレックス〉と呼んでいた。



山でスキーをするゾンマーフェルト。彼の外見のどこにも枢密顧問官の称号のかけらも見えない。



1930年のチューリッヒ。ランダウ（左）は例によってこっけいなしかめ面をしている。中央はアンバルツシャン（B. A. Ambarzumian），右にブロンシュテイン（？）（M. P. Bronshtein）。



ガモフとフェルミ



コペンハーゲンにおけるボーア。ボーアは右方でボールを手にしている。彼はサッカーがとてもうまかったが、彼の弟で数学者のハロルド・ボーアほどではなかった。弟の方はプロ級だった。ハロルドが母親と市電に乗っていたとき、乗客の一人が叫んだという：「この中に誰が乗っているかわかりますか？ 有名なサッカー選手ハロルド・ボーアですよ！」芝生にはボーアの子供たちがおり、彼らの真ん中にあるのは、未来のノーベル賞受賞者である四男のアーゲ・ボーア (Aage N. Bohr) である。



動物園での私の妻(右), 私(中央)およびディラック(左). 今ディラックは, これからどんな生物に会わなければならないか, という問題に真剣に取り組んでいる.